

第2回「新型コロナ・サミット」 岸田総理大臣ビデオメッセージ

バイデン米国大統領、ブリセーニョ・ベリーズ首相、シヨルツ・ドイツ首相、ジョコ・インドネシア大統領、サル・セネガル大統領、御参加の皆様、

新型コロナがパンデミックと宣言されてから2年以上経つ今も、世界の至る所で人々の健康が脅かされ、経済社会の発展が阻まれています。

我々は、このパンデミックを終焉させ、より良い健康安全保障を構築し、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）を達成すべく、具体的な取組を加速させていかなければなりません。

日本は、米国主導の「グローバル行動計画」の中で、特に、世界におけるワクチン接種の促進のリード国として貢献していきます。COVAXに対し拠出済みの10億ドルに加え、最大5億ドルの追加支援を行います。また、CEPIに対し、今後5年間で3億ドルを新たに拠出します。さらに、これまで実施した約4400万回分のワクチンの現物供与に加えて、各国・地域における輸送・接種体制を強化する「ラスト・ワン・マイル支援」を、計77か国・地域に広げ、約1.6億ドル規模で実施してきました。

ワクチンを含む医薬品・医療品の現地生産能力強化も重要であり、今般、アフリカにおける能力強化のため、JICAを通じて最大2億ドルの支援を行うことを決定しました。これらの取組が、より一層効果的にワクチン接種の促進に繋がるよう、現場での連携強化にも貢献していく考えです。

日本の新型コロナ感染症対策に関する途上国支援は、これまでに総額約45億ドルとなり、先に述べたCOVAXに対する最大5億ドルの拠出と合わせ、約50億ドルの支援を力強く実施していきます。

また、より良い健康安全保障の構築に向け、将来のパンデミックへの予防・備え・対応を強化するためのグローバルヘルス・アーキテクチャーの強化に積極的に貢献していきます。このため、国内資金動員の更なる促進や既存機関の活動を補完する資金メカニズムとして世銀に新たな基金を設立することを支持します。WHO改革、パンデミックに関する新たな国際文書の策定や国際保健規則の改正にも積極的に関与していきます。

日本は、日米豪印首脳会合、T I C A D 8、来年のG7をはじめ、日本が主催する関連会合も念頭に、UHCの達成に向け、引き続きリーダーシップを発揮していく決意です。ありがとうございました。

(了)